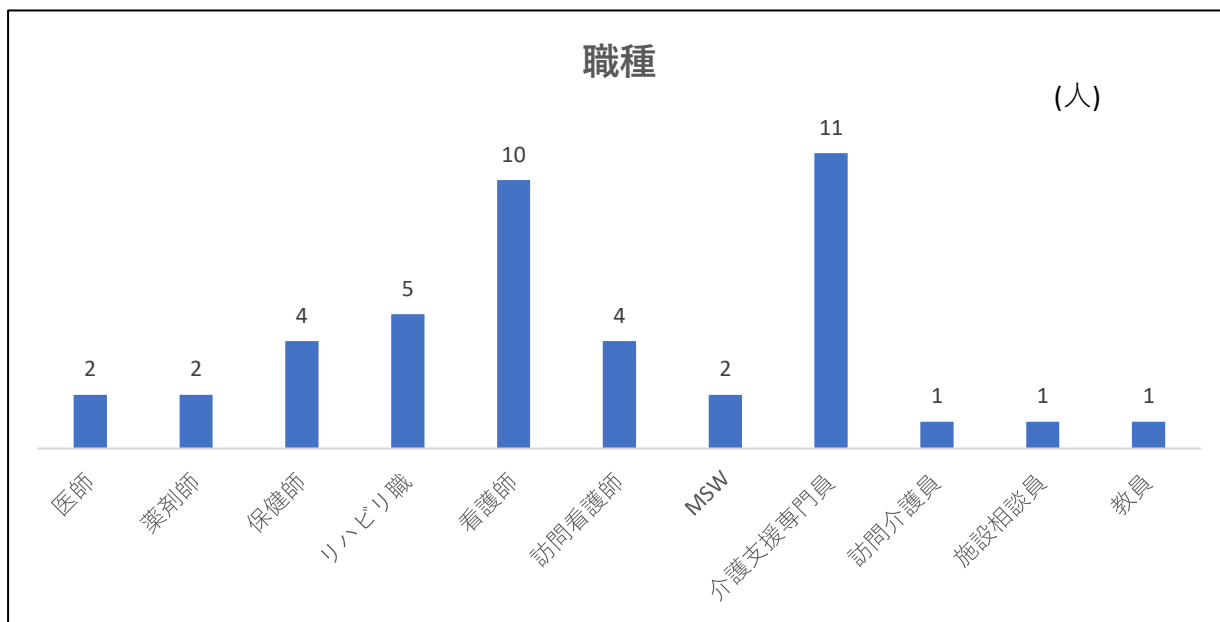
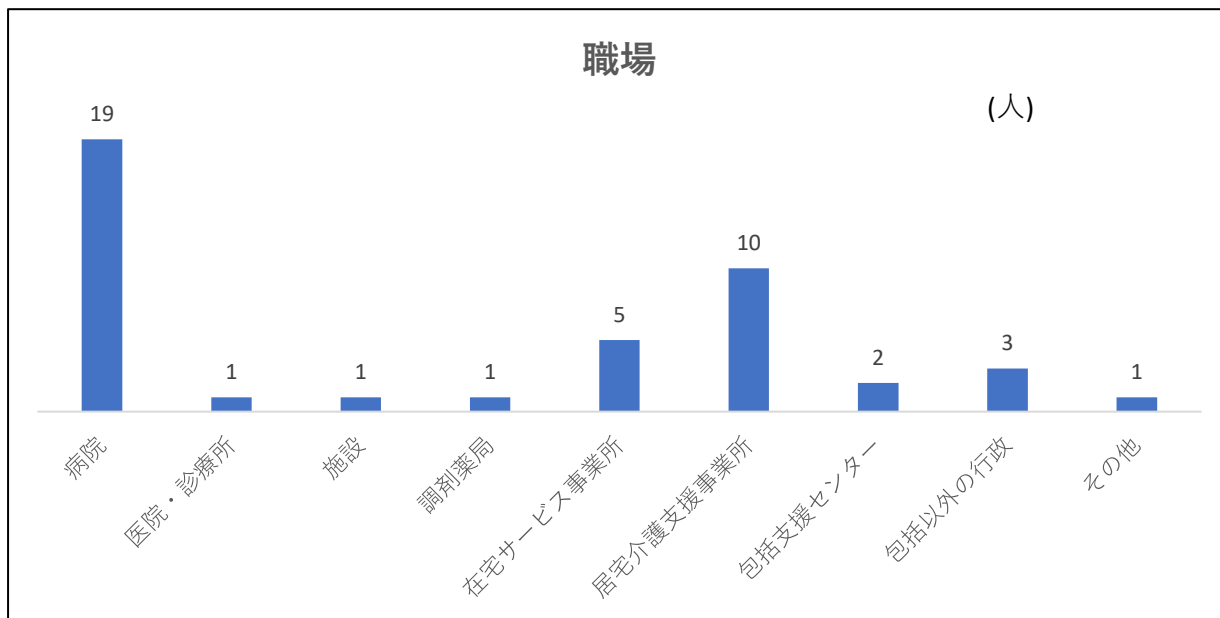


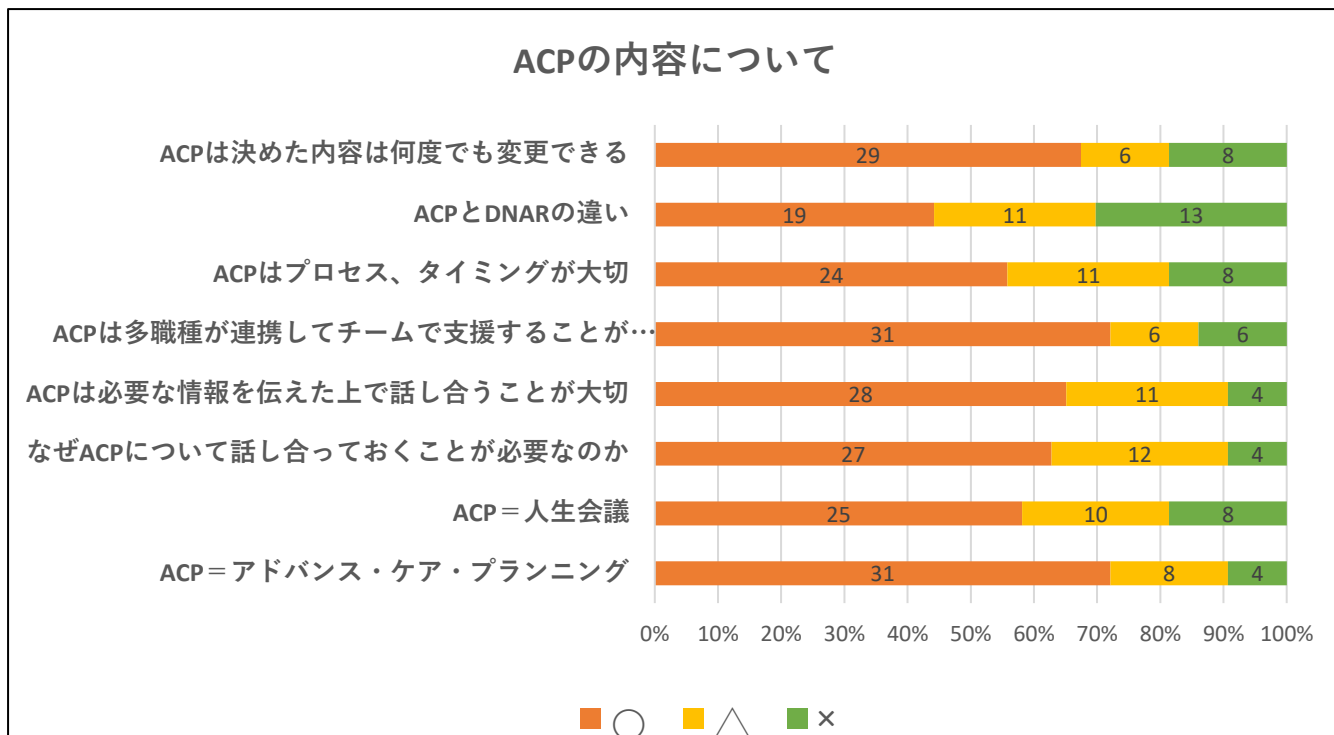
ACP 研修会 事前アンケート集計結果

お忙しい時にも関わらず、参加者全員の43名の方が事前アンケートをお送りくださいました。
本当にありがとうございました。
集計結果をそのまま掲載させていただきます。

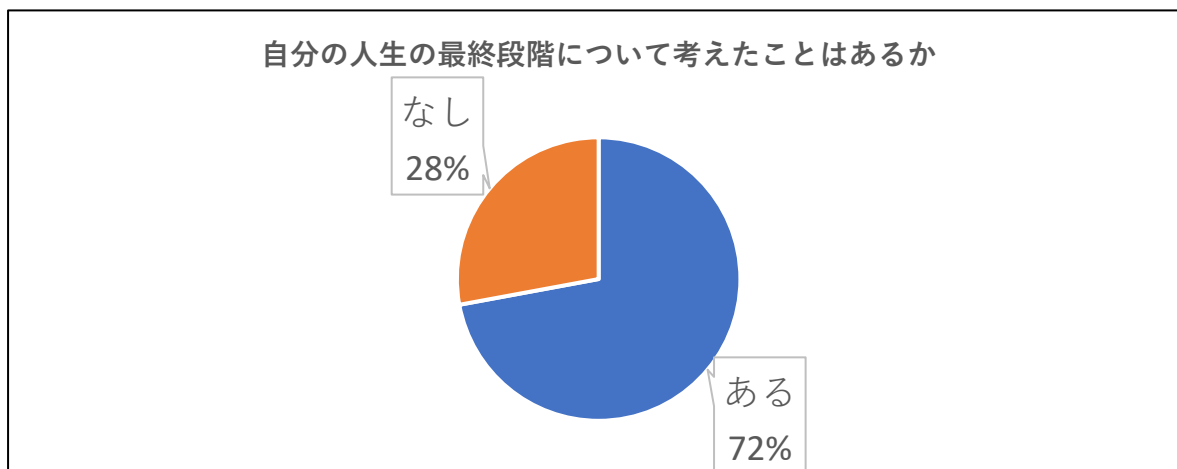
1 アンケートに答えてくださった方の職場、職種



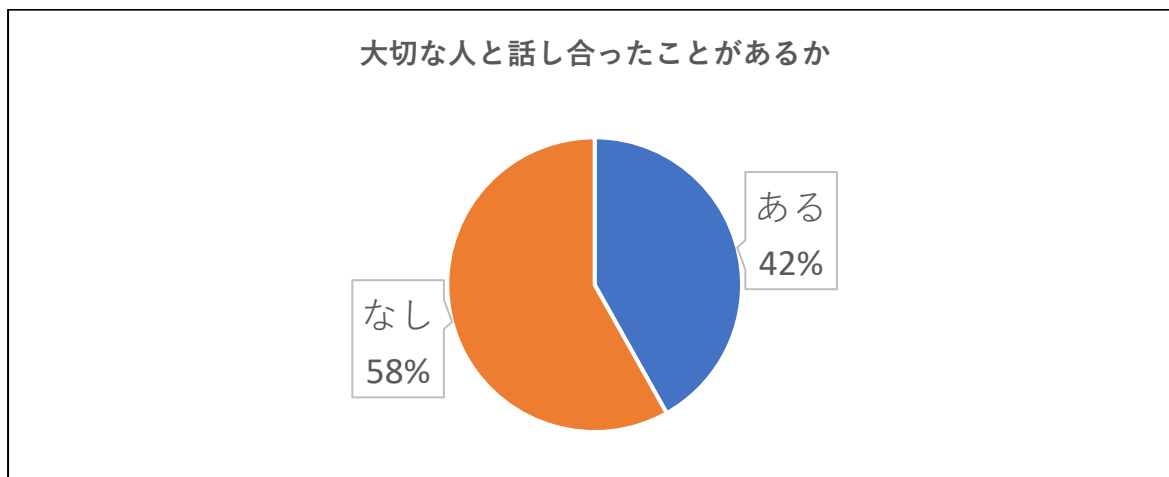
2 ACP の内容について、「知っている」は○、「聞いたことがある」は△、「知らない」は×で回答してください。



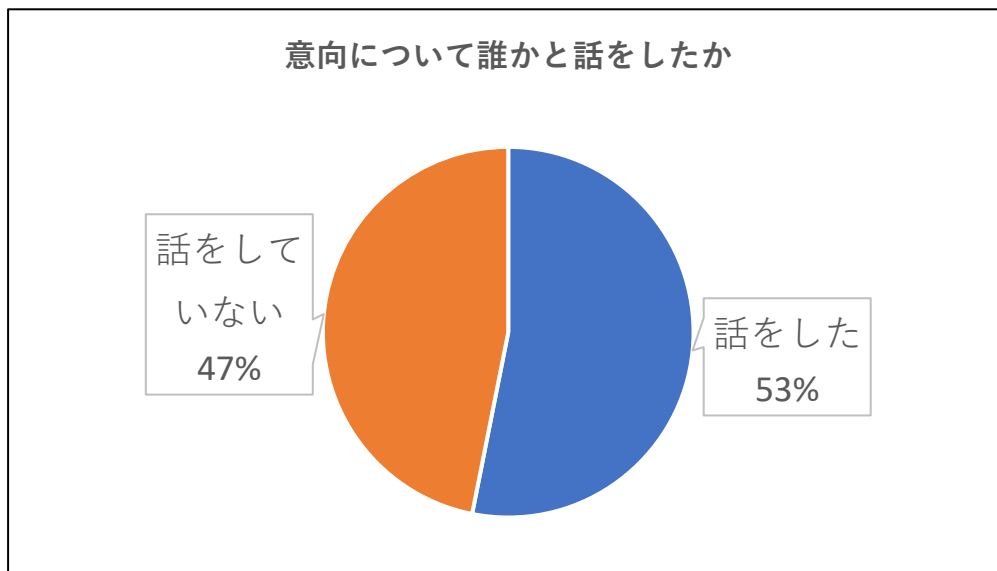
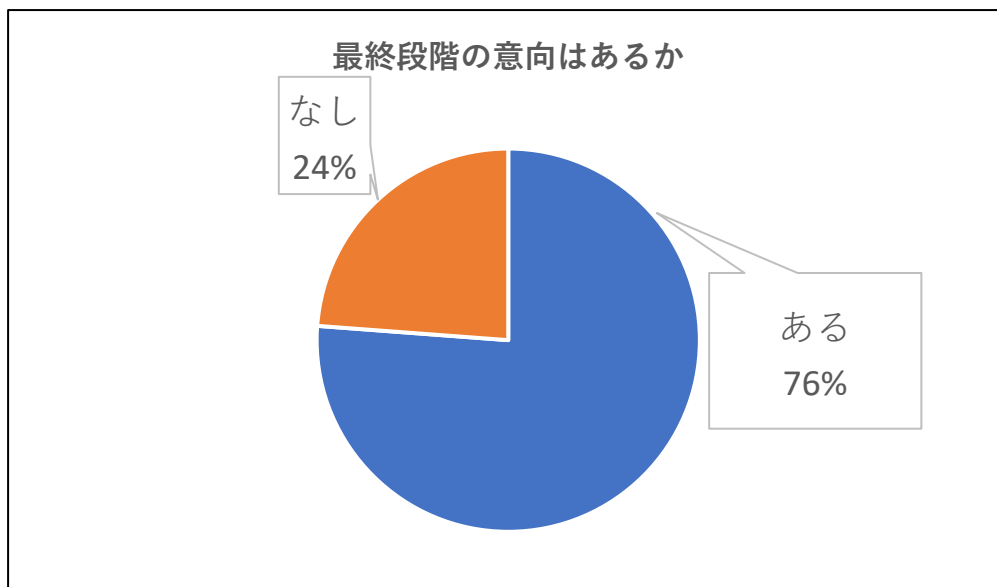
3 あなたは今まで、自分の人生の最終段階をどこで、どのように迎えたいかなどについて考えたことがありますか。



4 あなたは今まで、自分の人生の最終段階について大切な人(家族など)と話し合ったことはありますか。



5 自分の人生の望ましい最終段階についての意向について、誰かと話をしたことがありますか。



◆意向は「ある」が、「話をしていない」理由

- ・自分は仕事上、色々考えて思いはあるが、家族とはまだ他のことを考えることが多すぎて、ACP は話さない。
- ・まだ年齢的に元気な為、実感がわからないのと、自分の考えが整理できてからでないと話せないと感じる。
- ・実感が無い。
- ・まだ十分考えていないので「話をする」ことに気持ちが行かない。
- ・家族と今までそのような話になることがなかったから。
- ・時期尚早と考えてしまうのか、冗談レベルの話しかできていない。
- ・まだ早いと思っているから。タイミングがない。
- ・まだ元気だから。子どもが小さいので、(蘇生はしてほしくないが)決められていない。
- ・一人暮らしのため。年齢的にまだ話さなくてよいのではないかと考えている。
- ・話をするタイミング
- ・「ある」と言っても、漠然とした思いや程度であることや、年齢的にまだ現実味がないのが正直なところ。
- ・自分自身の人生を、最後まで自分が考える望ましいものにした方が良くと思うから。周囲の人たちが困

らないためにも話し合っておくべきだと思う。

- ・話をする場がない。
- ・話の切り出し方が分からない。また、相手の理解度が分からない。
- ・妻が拒否反応を示すのでできない。

※「話をした」と答えた方の理由も書いてくださっていました。

- ・蘇生はいらぬ。痛くないようにだけしてほしいと話している。

6 「元気なうちから望ましい人生の最終段階について話し合うこと」についてどう考えていますか

話し合っておいたほうが良い	41人
話し合う必要はないと思う	0人
今は判断できない	2人

❖ 「話し合っておいた方がよい」を選んだ理由

- ・急に死に向き合う状況になった時、残された家族が困る。
- ・自分の思いがしっかりと伝えられるうちがよいと思う。
- ・突然、意識障害になった時に自分の希望と違うことになるので。
- ・家族が判断に迷わないため
- ・もし何かあった場合にはどの様な事を望んでいるか分かれば対応しやすい。
- ・人生を大切に過ごすことにつながる。
- ・急変時に困らないように家族で話し合っておくことが大切だと思う。
- ・認知症や大きい病気になる前の自分の意思を伝えられるときにしかできないと思う。
- ・いつ何があるか分からないから。
- ・病気を患ってしまったら精神的にも落ち込み、ネガティブに、自暴自棄にしか考えられなくなる可能性があるから。
- ・いつ何が起こるか分からないから。
- ・後で後悔しないため、より満足のいく人生が送れるため。話し合うことで相手も自分の人生について考えるきっかけになると思うから。
- ・いつどのようなことが起こるか分からないから
- ・いつ病気になるか分からないから
- ・家族を悩ませなくていいから。
- ・自分の思いと家族の思いは同じとは言えない。自分の思いを伝えることができなくなってからでは伝わらない。
- ・自分で判断できるうちに話し合っておいた方がよいから。
- ・いつ何があるか分からないから、早くから自分の意思表示はしておいた方がいいと思うから。認知症になって自分の意思が伝えられなくなる可能性があるから。
- ・病気になったり、要介護状態になってからでは判断できないことや正確なことが伝えられない場合がある。また、状態によっては突然話すことができなくなる場合もあるため、元気なうちから話し合っておくのが良いと思う。
- ・誰にも訪れることを認識することができる。家族も心づもりができ、よりよい終末期を支えることができる。

- ・本人の意思が尊重されたほうがいいが、いざ話すとなるとタイミング等を思って「まだいいか」で、時間が経ってしまっている。
- ・本人の意思が尊重できる。家族も心の準備ができる。最終段階を迎えた時に迷いや公開を少しでも軽減できるのではないかと思う。
- ・人生の最期を自分らしく過ごせ、終わらせることが当たり前になるといいと思うので。
- ・自分の意思が伝えられなくなった時に、自分の望みが家族に伝わっていれば看取りの方向性の決定について家族の迷いの負担が軽減されると思うので。
- ・元気なうちの方が気軽に話ができるし、本人がしっかりしているので意向確認がしやすい。家族みんなが集まった機会が一番良い。
- ・本人の意思をできる限り尊重してほしいし、何回も話をしておかないと、突然話をして、「何、言ってるの？」みたいな反応で、「まあええが、また今度」で、みたいになると思うので、いざという時「ああ言ってたなあ」と思い出してもらえるくらい、口にしておく方が家族に本人の意思が通じると思うから。
- ・いつ何時、何があるか分からないから。
- ・自分の希望、大切な人への思いを伝えることができる。
- ・いざという時に本人の意思を話していた方が混乱を防げると思うから。
- ・急に選択を迫られることもあるので、なんとなくでも共有しておいた方がよさそうには思うが。
- ・いつどうなるか分からない。
- ・意向を聞いておくともしもの時に参考にできる。
- ・告別式の時に流して欲しい曲以外何の希望もないので、「話しておいた方が良い」と思うが、妻が拒否反応を示すので、「今は判断できない」とも言える。
- ・急な病気などで確認がとれないことがある。どのように老後を過ごしたいかを知り、希望を(以下、FAXが不鮮明にて読み取れず)

❖ 「今は判断できない」を選んだ理由

- ・その時(年齢によって)考え方が違ってくると思うから。

7 人生の最終段階を迎えた利用者や患者に、「人生の最終段階について話し合うこと」を医療・介護従事者として支援することについてどう考えますか。

チームで支援したい	39人
話し合ってもらいたいが、自分は支援者にはなりたくない	1人
話し合ってもら必要はないと思う	0人
本人や家族に放談されたら、自分で支援する	0人
本人や家族に相談されたら、他の職種に相談し支援してもらおう	2人
その他	0人

❖ 「チームで支援したい」理由

- ・一人では抱えきれないし、自分の判断が正しくないかもしれない。
- ・いろいろな職種で連携して関わることでその方の望む生活の支援がより良いものになればと思う。
- ・チームで考え、より良い方向にもっていきたい。何が最善かをみんなで考えていきたい。
- ・1人で行うと知識不足や価値観などから支援に偏りが出て、不十分な対応になると思う。多職種が知恵を出し合い、連携することでより本人の希望に近づけることができると思う。

- ・一人だけで支援するのではなく、チームで支援していくことが大切なので。
- ・多職種連携は必要。
- ・チームで関わるなら、チームのみんなが意識を一緒にする必要があるから。人の数だけ意見はあり(それに惑わされることは良いとは思わないが)、色々な意見から気づきはあると思うから。
- ・家族には話せないことがあるかもしれないし、相談された側の負担を考えると、チームで関わる方が継続して関わるができると思う。
- ・一人ではできることも限られ、考え方も偏ってしまうため、チームで支援していきたい。
- ・利用者や患者だけでは判断が難しいことや医学的観点からの情報や提案も必要だと思うから。
- ・多職種で関わる方が良いから
- ・一人一人考えや思いは違うから、各職種(専門職)で支援したい。
- ・いろいろな意見が聞けるから。
- ・本人や家族だけでは決めきれなかったり、踏み出せないこともあるので、思いを尊重しつつ、支援をチームで行えたらと思う
- ・支援の幅が広がる。専門性を行かせてより良い支援ができる。
- ・様々なニーズに対応するためには一機関や一職種では困難だと思うから
- ・ご本人の思いが一番であるために、ご本人の思い通りの最後が迎えられるようにするには情報や選択肢が多いほうが良いと思うから、ご家族にとっても良いと思います。
- ・訪問看護師として、最終段階のケアに携わることがあるが、「この方は本当にこれを望んでいたのだろうか。」「ご家族はこれで納得しているのだろうか」と思うことがある。一人の人間としてもそうだが、専門職として伝えられることがあるならば、チームで支援したい。
- ・職種によってできること、できないことがある。利用者とその家族がよりよく最期を迎えるためには多職種で支える方が良い。
- ・入退院時だけでなく院内に掲示して平素から患者さんの目に触れるようにしたり、入院時に何かレリーフのようなものを配布したらどうだろう。
- ・それぞれに専門性があり、多方面から支援できる。
- ・一人ではできないことだと思っており、利用者さんやご家族の希望する最期をいろんな方とお手伝いしたいので。
- ・様々な可能性や支援の形の幅が広がると思うので。
- ・一人では抱えきれないし、本人もいろんな意見を聞いたり、アドバイスをもらった方が、望む最期に近づけると思うから。
- ・自分ひとりではできることには限界がある。本人、家族はもちろん、支援者も納得できる形にするためには多くの協力者が必要だと思う。
- ・本人の思い、家族の思いはそれぞれあると思う。支援者も色々な方向からの視点、支援が必要だと思う。
- ・様々な職種の意見を聞く必要があると思うし、単独の支援では荷が重すぎるから。
- ・多職種で意見交換することにより考えが偏らず、知識や選択肢が広がる、また、情報共有することで支援者の負担感も軽減できると思う。
- ・いろいろな立場からのサポートがあるべきだと思う。
- ・いろいろな人の話を聴いておきたい。
- ・個人の視点だけだと偏りが生じる。個人だけでやると 24 時間切れ目のないサポートができない。そういう時期のサポートは医師よりも生活を支えるようなナースやセラピストや MSW の役割が重要だから。
- ・チームで情報共有しながら支援を行い、本人・家族が望む方向に近づけたい。

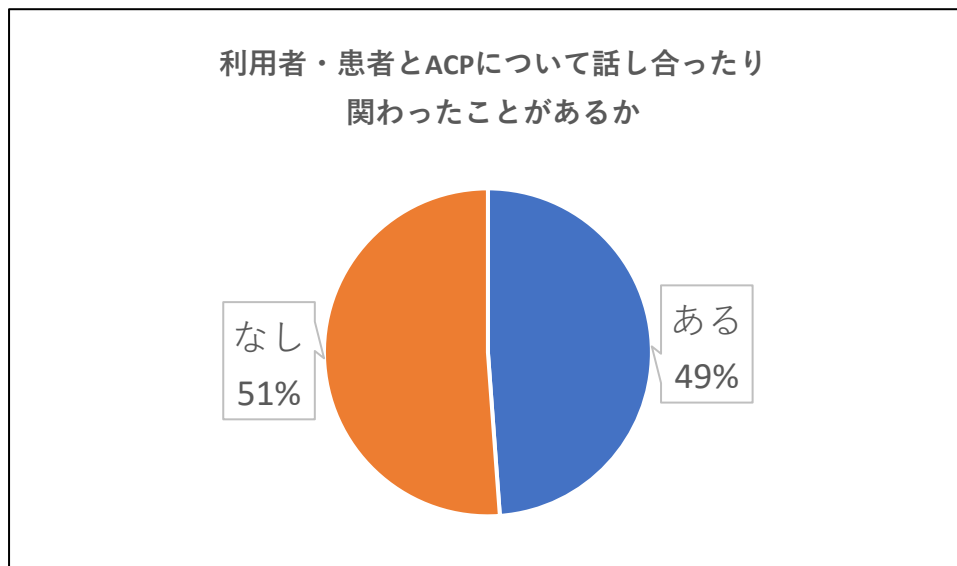
❖ 「話し合ってもらいたい自分は支援者になりたくはない」理由

- ・その方の人生を理解することはできないと思うから。

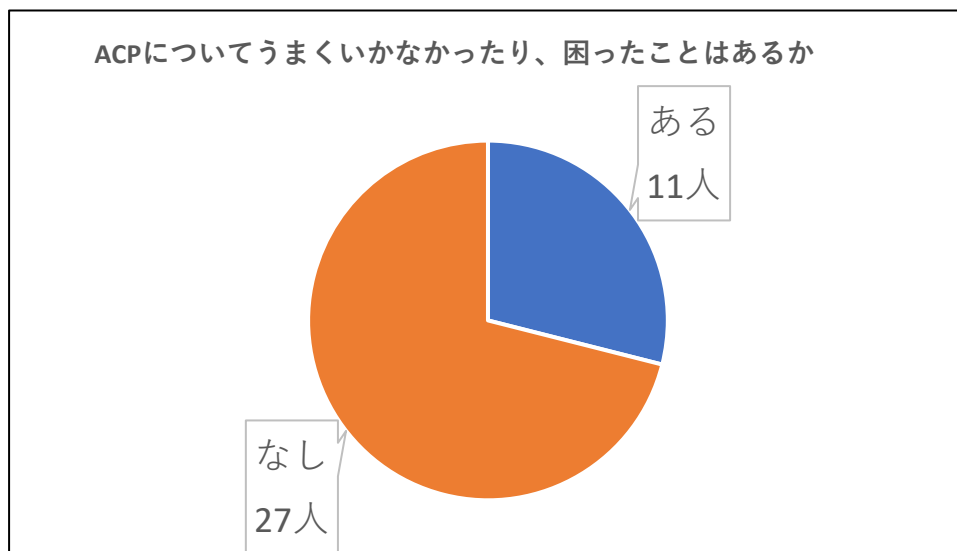
❖ 「本人や家族に相談されたら、他の職種に相談し支援してもらおう」理由

- ・自身が知識不足のため、支援できるかどうか不安であるから。
- ・知識や経験が乏しいため。

8 利用者・患者と ACP について話し合ったり、関わったりしたことがありますか。



9 今までに、ACP について話し合いをしたり、関わりたいと思ってもうまくいかなかったり、困ったりしたケースはありますか。



❖ 「ある」場合、どのようなことか

- ・本人と家族のそれぞれの思いの違いによりうまくいかなかず、悩むことがあった。
- ・「他人に迷惑をかけられない」という思いや「どこに相談すればいいかわからない」などという意見をよく聞く。自分や家族の時も同様だろうと思う。
- ・その対象となる本人が、自身の病状を知らない時。

- ・治療を希望され、在宅で過ごしたりする時間が限られてしまう。
- ・入院してこられたばかりで、ACPのような大切なお話をするにあたって、信頼関係が十分作れていない中で話を聴くことがあり困った。本人の子どもや体力、症状の面や家族と本人の思いが一致しないケースもあり、思っているもできないケースもあった。
- ・ACPの時期を脱することが多い。死に対する考え方(受け入れというか、“死“という言葉自体の偏見)
- ・血縁の方が近くにいないこと。本人だけ(意思決定)でなく、血縁の方の了承が得られない場合。
- ・ターミナル期の新規の方の担当になった場合に、どのような方なのか理解する時間も無く信頼関係も浅いままで、ご希望を汲み取れないもどかしさを感じた。
- ・多職種での会議には、場所や時間の制限があり、十分な話し合いが出来ない。また、家族内でも考え方が違っていたりする。支援者としてどこまで踏み込むべきなのか、手探りしながらで、うまく運べなかったこと。
- ・本人と家族の希望が違う時。
- ・死を受け入れられず、自閉のようになった患者がいて、死後、妻から色々な問題を教えてもらってびっくりした。

10 ACPについて、どうすれば一般市民の皆さんに知ってもらい、考えたり、話し合ったりしていただけるようになると思いますか。今、考えられることをご記入ください。

- ・テーマを決めて少人数で会話できる機会があればいい。
- ・まずは色々な職種が理解をして重要性を認識しておくことで、いろいろな場面で話していけると思う。
- ・パンフレットを配る。
- ・ACPが行われるようになった経緯やなぜ大切なのかをまず知ってもらうことが大事だと思う。啓発のチラシを作って、それを市民の方に配布するのはどうでしょう。あとは、私たち医療・介護従事者がACPについて知っておき、説明できるようにしておかないといけないと思う。
- ・ACPの意味を知ってもらう。
- ・ACPについて医療・介護従事者だけでなく、地域の方々と一緒に普及に向けた取り組みを地道にしていくことだと思う。例えば、地域住民向けの人生会議(ACP)の大切さについて広報、講演会をする等。
- ・まずは入院した時など、病院で考える機会を持つ。研修(市民対象)で行う。
- ・チラシなどの啓もう、地域住民に向けた講義の実施。
- ・その時がこないと真剣には考えられないところがあると思うので、身近な人が最期を迎える可能性のある病院などで家族に向け啓発できれば。
- ・ACPという言葉自体を知らない人が多いと思うので、講演会や新聞(民報)や市報などに掲載するのがいいと思います。
- ・もっと身近に感じられるように、ACPについての知識やどういったものなのかなど、市民講座などを通して行ってみる。
- ・まずは自分の家族から話を始めて見る。
- ・市民向け講座を増やして理解してもらう
- ・講演会等を行う。市報や備北民報に掲載させてもらう。
- ・講演会や集会などを開催し、知ってもらうところからだと思う。
- ・講演会。 各病院のスタッフの勉強会 各病院にパンフレット、ポスター
- ・話し合っている事例を映像化して見てもらう。
- ・ACPの概念が言われ始めてまだ新しいので、まだまだ浸透していないと思われる。DNARでさえまだまだといえる。かなりシビアな部分ですので、協議の上にも協議を重ねて、利用者、患者本位の良いものが

できればと思う。

- ・分かり易く広報する(研修会、iチャンネルの活用)。
- ・社協のイベントや講演などで身近に感じられるような取り組み。かかりつけの病院・医院・診療所(診療科を問わず)や、家族や親族が利用している施設や事業所でのきっかけづくりなど。身近に感じる事が大切かと思う。
- ・市民公開セミナーなどで情報を伝え、市報などで周知する。備北民報でシリーズ化して伝えるのはどうか。おでかけ市長室のように各地域でおでかけ ACP 教室みたいなものはどうか。
- ・iチャンネルで紹介する。敬老会等で紹介する。
- ・病院等、医療施設から、市の広報等からの啓もう活動をしていく必要がある。誰が、どこが旗振りするか！
- ・リーフレットのようなものを配置したり配布したりする。サロンや介護者の集いなど人が集まる機会を利用して紹介する。iチャンネルや市報など市民がよく見るもので紹介する。
- ・自分ごととして考えてもらうことが一番大切で、人生の最終段階について、抵抗なく話ができる意識を変える必要もあるのかなと思う。
- ・ACPについてなかなか耳にすることがないと思っている。市民研修会や講演会、ケーブルテレビなどを活用した様々な形での周知をしていかないと知ってもらいにくいと思う。
- ・何かの研修の際、そのようなことが載った冊子をいただいたことがある。例えば老人クラブの集まりなど、人の集まる機会に ACP に関するお話が聴けたり、段階に応じてセレクトできるような具体的な提案など記した簡単なプリントがいただけたりすると少しずつ皆さんに関心を持ってもらえるようになるのでは?と思う。
- ・健診の時にアンケートをしてもらう(健診する年齢になったら意識してほしい)。民報にアンケート欄を付け、家族で話し合う機会を持ってもらう。
- ・重くないテーマで、ちょっと聞いてみよう!と思えるような講演会+いろんなブースがあつたりすると、足を運びやすいかも? まずは専門職から? 10年位前に包括がエンディングノートを使った講座をあちこちでやっていましたが、もうみんな忘れてるかな~。
- ・終活ノートを一般にも届ける。ACPの日を作って、広報して考える機会を作ってみる。
- ・若い世代では先の話と思われがちであると思い、なかなか難しいと思います。知ってもらう意味では地域の交流の場でちょっと話してみるような形をとればよいかもしれません。
- ・かかりつけ医からの紹介。地域の集会で講話。若い時からの教育。介護保険初回認定時に説明用紙を配布。一定年齢に到達したら無条件で説明を送付。
- ・これまでも何回か開催されていると思うが、もっと市民講座のような機会があればよいと思う。その講座の事前広報や事後は、内容などをよく読まれている新聞等に掲載できれば、どうでしょう。
- ・実際にあった家族の経験談を話す機会があるのも良いと思う。
- ・ACPの話地域や家族、職場、学校で当たり前のように話ができること。そのような話をする機会を持つこと。
- ・有名人が終末期になって、ACP してなくて悲しいことになったという報道が流れ、大々的に ACP が取り上げられるようになれば・(PEG の逆パターン)
- ・田舎あるあるで、老後は家族が介助し、最後は病院。急変時などは、医師が言うことが一番となっている。老後であつたり、病気になった時の話はタブーになっている面があるため、家族で話し合うことが大切であり、自分はこう思っている・など、声に出して言えるよう、今後の話をできる場であつたり、働きかけが必要。ACP、人生会議という題ではなく、分かり易く説明する必要あり。